

素材「動物」が現れたる 諺について（２）

浮 田 三 郎

本発表では、ギリシア語と日本語の諺に使用されている動物を表わす素材（単語）に着目し、これらの素材の使用頻度を中心に、二言語間の表現様式あるいは両国間の風土や民衆の生活様式の類似点と相違点を考察してみた。

そのための数量的分析のための資料としては、日本語の諺は、金子武雄、『日本のことわざ』、（一）評釈、（二）統評釈、海燕書房（1982）の2巻に収録されている見出しの諺 666個を基本的な諺とし、現代ギリシア語の諺は、Rohlf's, G., *Italogriechische Sprichwörter in linguistischer Konfrontation mit neugriechischen Dialekten*, München, (1971) に収録されている諺 500を、資料母体とし、動物を表わす素材（単語）を全て抽出して、便宜的ではあるが、哺乳類とか鳥類などのいくつかの項目に分類し、両語の諺で「動物」の素材が使われている諺の数を中心に比較してみた。また、言語的特徴も対比してみると興味深い。

例えば、両語の諺に使用されている素材項目の数には、両語の諺間にあまり差はないが、素材の使用頻度の点では、諺総数に対する出現率は、日本語の場合が12.6%、ギリシア語の場合が26.7%で、大きな差がある。この数値を見る限りでは、両国民の間には動物に対する意識あるいは動物への接触の仕方にかかなりの違いがあった（ある）と言えそうである。

また、ギリシア語の諺に使用されている素材では、家畜がよく使用されていることも分かる。ギリシアでは、牛、鶏、山羊、ろば、豚、羊などの家畜が日常の生活の中でよく目に触れ手に触れていた（いる）ことが窺える。

あるいは、ギリシア語には、男性や女性を示す接尾辞が発達していて、それを利用して雄と雌を区別したり、名詞や形容詞の男性語尾や女性語尾を利用して雄と雌を言い分けることもでき、豊富な表現を形成している。

なお、本発表では、拙稿「日本語とギリシア語の諺対照比較研究（４）
一 諺の中に使用されたる素材「動物」（２） 一」、『広島大学教育学部
紀要』、第2部、第38号（1989）を、発表資料として使用した。